# 開会挨拶

京都大学副学長・研究担当理事　　吉川　潔

おはようございます。研究担当理事・副学長の吉川でございます。

本日は、多くの方々に第５回京都大学附置研究所・センターシンポジウムにおいで頂きまして誠にありがとうございます。

今朝は、前夜来の雨も上がり、大変春めいた雰囲気になりました。奈良東大寺二月堂の修二会も昨夜大松明がともされ、関西ではお水取りが終わると春が来ると言われております。

さて、先ほど総長からのご挨拶にもありましたように、京都大学には１３の附置研と９つの研究センターがあり、大変広範囲の学術領域で精力的な研究活動を展開しています。これらの研究所・センターが共同で、これまで４回のシンポジウムを開催し今回は５度目に当たります。

今回は総合テーマを「京都からの提言－２１世紀の日本を考える」、サブテーマを「グローバル社会に生きる－未来を見据える目－」として、地球温暖化や、エコシステムへの温度効果、生物多様性など自然科学の話題に加えて、日本の伝統文化や経済といった人文社会系のお話も組み合せ、京都大学の多様な学術研究の一端をご紹介させていただきたいと考えております。

また、後半のパネルディスカッションでは、九州大学大学院理学研究院教授の矢原徹一先生、読売新聞西部本社編集委員の小林清人様にもゲストパネリストとしてご参加いただき、「地方から日本（世界）を変える」というタイトルで、今日我が国が抱える様々な問題について議論をいただき現在のこの閉塞感を地方から打ち破っていただきたいと希望しております。

ちょうど江戸幕府の末期、九州、中国、四国の高い志を持った人たちが京都を舞台に活躍され、明治維新の大回転を成就されました。今回は、京都からたくさんで福岡の地を訪問させていただきましたが、このシンポジウムが我が国に漂うこの閉塞感を打破するきっかけになればと願っております。

朝早くから夕方５時過ぎまでのプログラムではありますが、皆様方には本シンポジウムをご堪能いただければ幸いに存じます。

以上簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。（拍手）